



第十卷第一號

## 幼稚園教育の普及的必要

會長 中川謙二郎

世の中に、いろいろ大事なものがあるが、澤山あるが、國家の將來を考へると、どうしても子供ほど大切なものはないのである。いふまでもなく、子供に對しては、家庭に於ても十分の保護を加へ、學校に於ても、また國家に於ても、十分の注意を怠つてはならないのである。即ち、社會全般が、子供を尊敬し、愛護しなければならぬのである。

幼稚園は、子供が家から出で、社會生活に入る第一門である。生後二三年を経て、子供が近處の友達と遊ぶやうになると、そこに社會生活が始まるのである。即ち幼稚園時代が、人間社會生活の始まりであつて、人生に於てよほど大切な時期である。

此時代に、單に家庭だけの教育では、子供が社會生活を學ぶ事が出来ぬから、此點から、是非幼稚園、または、之に類似の設備のもとに子供の最初の社會生活をよく教へ導かねばならぬのである。此意味に於て、即ち、子供の社會生活の始めに於て、特別な訓練を行ひ、心身の發育の爲めに十分の保護を與へるといふのであるから、幼稚園教育は性質上普及せしむべきものであつて、決してある一部の社會に限られ

たものではないのである。

我國に於ては、歴史の然らしむる處か、とかく幼稚園を贅澤視するやうである。「私共は、幼稚園にあげる身分でありません」などと云ふやうな事をしばしば耳にするが、是等は、幼稚園教育の眞意がよくわかつて居ない處から起る誤謬であらう。

どうか、幼稚園教育が、國家發展の爲め、眞に大切な理由が、今少しよく了解せられたいものである。

家庭教育がよくゆきとどくならば、或は幼稚園教育は無用であるといふやうな事も云ひ得るかも知れぬが、しかし、今一歩進んで考へれば、前にも述べた如く、家庭だけでは、子供を、社會生活の基礎の上に教育する事が不可能であるから、幼稚園教育が必要になるのである。

現今、我國で大多數を占めて居る中流以下の家庭が、子供に向つてどれほどの注意をはらつて居るであらうか。多くは子供を面倒がつて、子供に

さまたげられて、甚しきは「此の餓鬼めが」などとあくたいをついて居るのではあるまいか。勿論、中流以下の社會に於ては、生活に追はれて居るのに、子供に母の仕事の邪魔をせられる事は、最多いのであるから、一々之をとがめるのは酷である。されば、どうか、かゝる母親にかはつて、必ずしも、幼稚園でなくても、幼児預かり所といふやうな、之れに類似の設備を以て、母親の仕事も十分に出來、子供の教育も十分に注意するといふやうにしたものである。

學校の方から云へば、幼稚園教育は、學校教育の準備であるから、之を普及せしむれば、學校教育の上に、著しくその効果のあがるわけである。然るに現今の状態にては、小學校と幼稚園の關係がよくつゝいて居ないので、幼稚園教育を受けた兒童は、この點はよいが、あの點がわるい、むしろ、幼稚園はなくてもよいなどと、想像的、または、妄像的に云ふて居る人もある。之に依つて本

邦の幼児教育思想の幼稚なことが表明せられるのは遺憾なことである。

要するに、幼稚園教育は、國家將來の爲めに、甚だ、大切な事業であるから、或種の社會に限らるゝ事なく、一般に普及せらん事を希望に堪へな

## 保育入門 (一)

### 一 幼児の生活

子供の生活を觀察するのに二つの見方がある。

『まだ發達して居ない』といふ點からの見方と、『既に之れだけ發達して居る』といふ點からの見方とである。勿論、此の二種の見方は、どちらの見方によつた處で、事實の實際に於ては別に變りのある譯ではない。假令ば今年三歳の子供を、まだ四歳にはなりませんと言つた處で、もう三歳になり

のである。

幼稚園の方でも、如何にせば、最よく兒童を發育し、愛護し、學校教育の最よき準備となるべきかを、精しく研究せん事を切望するのである。

倉橋惣三

ましたと言つた處で、事實三歳たることに於て何等違つたことを言つて居るのではないと同様である。しかし、見方の違いとしては、明かに區別することが出来るのである。而して假りに消極的積極的の見方と名づけて置く。ところで、吾々は日常平生、此の二種の見方の中、いづれによることが多いであらうかと考へて見ると、殆んど常に、消極的見方の方によつて居ると言つてもよい。即